

東京薬科大学新聞

発行所 東京薬科大学新聞会
責任者 中道博之
新聞会 会員募集!!

体育開祭

催

十月十七日に体育祭が、体育会主催により学内のグラウンドで行われた。大会当日は晴天に恵まれたが、前日に降った雨の影響でグラウンドのコンディションが悪く、開会式が放送で行われ、100m走が中止になったもの、それ以外半遅れの午前十一時から行われた。

参加したのは、体育会二十三、文化七、学術三、同好会二の合計三十五の部、そして十八の研究室で、これらが六つのチームにわかれて、チームごとに点数を競いあうという形式で行われた。競技種目は全部で十二種目で、騎馬戦綱引きなどの一般的な種目はもちろんのこと、恋人さかじし「High&Lowゲーム」などの趣向を凝らした種目もあり、参加者を盛り上げた。五時間にわたる熱戦の末、柔道部率いる緑チームが優勝した。

当日は晴天ながら、十一月下旬並みの冷え込みにおおわれ、その影響か、初めのおちはいささか参加者の動きがにぶく、盛り上がり欠けるところがあつたが、司会者の必死の引き立てもあり、第一種目から早速珍プレーが続出した。

第一種目の「障害物競争」は、綱くぐり、梯子くぐり、マシンゴロくぐり、ジュニア早飲みと、平凡なコース設定ではあつたが、梯子を持ち逃がしてしまつた選手や、泥水の入つた洗面器にむりやり顔を突つ込まれる選手がいたり、

さらには、綱をくぐっている選手が数人がかりで袋だたきにされるという場面もあり、予想以上に壮絶なレースとなつた。また、男子のレースでは、ジュニアの姿わりにまむしドリンが出された。

次に行われた「借り物競争」は、カードに書いてある条件にあらう人をゴールまで連れていくという競技であるが、やはり奇聞雑聞が頻出した。例えば「金の指輪をはめている人」などという具合で、参加者の中にはどうしているか分からなくおぼろおぼろする人や、あきらめて途中でやめてしまふ人もあつた。

午後の部はまず最初に、体育祭一番の人気種目である「恋人さかじし」から始まつた。これはくじを引くことによつて男女のペアをつくり、そのペアでおふんやだつこ、二人三脚などをするとするゲームである。このゲームの特長は何といつても一回のレースに走る男子の人数が女子の人数より多いため、男子があまつてしまつたところだつた。このため三度もレースに乱入し、グラウンドは一時大混乱となつた。

午後四時半には、選手たちの熱い戦いを閉じた。勝敗はどうであれ、共に走り、戦い、応援し、汗を流せたことは素晴らしいことである。参加者全員が今日の体育祭を大学生生活の思い出の一ページに残すことが出来たのではないだろうか。まずは、今年の体育祭は成功を取めたといえるだろう。

去る十月十四日午後、二年一度学費改正についての説明会が行われた。出席者は理事会の約半数であり、一方、学生側の参加者では大半が自治委員及び執行委員であった。この機会により大学側は初めてその方針を正式に明らかにした。その結果、土曜日の午後であったが、学生側参加者の少なさが目立ち、この件に対して学費に関心を持っていないように思えた。説明会で公表された内容は、

学費改正 説明会レポート

入学金十萬九千円、授業料二十萬円、合わせて三十九萬九千円という案が濃厚である。その理由としては以下のようなものが挙げられる。

- ①政府の私立大学への補助金の停滞(実質的削減)による資金難。
- ②八年間学費値上げを据え置いてきたが、そのしわ寄せが現在表面化してきている。
- ③人件費等の必然的上昇による大学運営経費の増大。
- ④大学施設・設備の老朽化対策及び増設(教育三号棟等)による支出の増大。

★総合成績優秀者：緑チーム(柔道・ラグビー・卓球・硬庭女・ギター・化研・二衛九〇点)二位：紫チーム(野球・ゴルフ・卓球女・ハルモニア・漢研・二薬学)一〇〇点。臨床薬理・化学)一〇〇点。三位：青チーム(陸上・自動車・パトミ・バレエ女・やきも・軽音・二生薬・一分析・臨床生化)一薬劑・二薬劑)九三五点)四位：白チーム(空手・スキー・硬庭

美術館訪問

季節が変わり涼しくなつてくると感受性が高まり、美術が好きになる人も多くなり、あまり興味のない人も心がかきまわされてくる。美術の世界を求めて美術館に行つてみて、吸い込んでみてはどうか。行つたのは、船橋の西武百貨店十階にある西武美術館。パルビゾン、印象派とエゴール・ド・パリの画家たち」というテーマの展示。パルビゾン派はミレーを代表とする詩的風景画。印象派は色使いに

季節が変わり涼しくなつてくると感受性が高まり、美術が好きになる人も多くなり、あまり興味のない人も心がかきまわされてくる。美術の世界を求めて美術館に行つてみて、吸い込んでみてはどうか。行つたのは、船橋の西武百貨店十階にある西武美術館。パルビゾン、印象派とエゴール・ド・パリの画家たち」というテーマの展示。パルビゾン派はミレーを代表とする詩的風景画。印象派は色使いに

特色があり、今日多くの愛好家を持つているものです。エゴール・ド・パリ(パリ派)は、大戦中、パリに自由を求め胸に憧を抱き世界から集まつた芸術家を中心にパリで活躍した画家たちの総称です。主な出品画家をかいついで挙げてみると、ゴッロー、ドラクロワ、シヤガール、マチス、ピカソ、ユトリロ、ロランサン等、近代フランス絵画の流れを形作るものが集められています。

美術館の荘厳な雰囲気の中で、展示してある作品を鑑賞していると、並べられた数々の

★スウェーデンリレー(女子) 〇優勝：硬庭A 一分三九秒二 〇二位：硬庭B 一分四三秒九 〇三位：スキー 一分四九秒九 〇四位：バスケット 一分五二秒九 〇五位：パトミントン 一分五七秒九

★バスケット(男子) 〇優勝：八七五点 〇五位：黄チーム(剣道・バスケット男・バレエ男・軟庭女・アーチェリー) 〇二位：紫チーム(野球・七五七点 〇六位：赤チーム(サッカー) 〇五位：パトミントン 〇六位：スキー 七六五点

★研究室対抗リレー(男子) 〇優勝：臨床薬理 一分二二秒三

この問題は学生側、大学側そして、法人側の今後の協議で決定されるため、これから学生側の慎重な対応が求められる。

編集後記

今回のはコピー機は混んでいて原稿は上がってこないし、かなり疲れた。そういえば今度98を買います。へへへ(てい)

この夏はバイクで西日本(四国は除く)一周をやつてしまった。もちろんソニーリレーは反対だ!! (味の素)

いよいよ加減にしようと思つた。山の上にある。口に出せないのが悔しい。(i)

芸術の秋です。僕もその気になつて、女の子とデートしようかなあななと思つたりするのですが女の子がいたりすることに気が付いてしまふ今日この頃です。(さあしや)

冷たい風が容赦なく吹き初めてバイク人は辛い。でも彼女がいてるし。(美人教師)

シアガールの絵を見ていて涙を流す少女を見かけた。彼女のハンカチを眺めていたら、女が、純粋だった頃の自分を思い出していた。(ツマ)

の絵のなかに特別に心動かされる絵がいくつか見つかりました。その絵が舞臺する力によって、心が動かしきれないもの、心を一つ見つけた感じ、あつたとしても、美術館まで足を運んだだけの価値は見いだすことが出来るに違いない。心も浮かび上がつてくるような、心を魅了する一枚の絵、絵という平面的空間に封じられたその力が我々の意識の領域で立体的な空間に広がりをもち、そして更に無限の時間の流れまでも感じさせる。現実の映像に比べ更に神秘的奥深さを感じさせるその素晴らしいの価値を。貴方もこの素晴らしい美術の世界を触れたい美術館まで行つてみてはどうか。

今月一日、新幹線は二五周年を迎えた。昭和三十九年十月一日、東京オリムピックの開催に合わせて国鉄が東海道新幹線(東京)新大塚から開業。当時では世界最高の時速二二〇キロ営業運転を行つた。その後、超特急として人々にもはややれど延び、昭和五十六年九月にフランス国鉄TGV(現在時速三〇〇キロ営業運転中)に世界一の座を譲つたものの、東北・上越新幹線と次々に開業、昭和六〇年秋から二階建て新幹線車輛が営業運転を始め、現在では時速二二〇キロで運行を行っている。この二五周年、新幹線は一件の死亡事故も起こさず、延べ二億七千万もの乗客を運んだのである。JR東海では東京・新大塚間を二時間三十分で結ぶ時速二七〇キロの「スーパーひかり」を開発する予定で、来年春には試運転車両一編成を完成させ一九九二年には営業運転をする見通しがある。新幹線による社会現象も生じてきた。新幹線の速さ、利便性により、通勤可能距離が広がり、沿線地域での宅地開発が進み、特に東北・上越新幹線の上野乗り入れ後は、宇都宮・高崎などの都市からの新幹線による通勤、通学者もかなり増えている。中には東京の有名私立小・中学校へ通う子供までもが乗っているのである。「ソニーレラ」エクスプレスを知っている人も多いだろう。これは日曜夜、東京二時発ひかり三三三号新大塚行最終列車のことで、東京で恋人と東の間の幸せな週末を過ごした人が、恋人をプラットフォームにに残して一人帰路につくという何とも哀しいロマンチックな列車である。JR東海のT.V.C.Mなどで一躍有名になり、実際にかなりのアベック連が日曜の夜に東京駅の新大塚ホームへ来て、東京エクスプレスの体験をする人が出てくるのかもしれない。(よつちゃん)

九〇二位：一衛生 一分二二秒三 〇三位：薬植B 一分二五秒四 〇四位：薬植A 一分二七秒九 〇五位：紫チーム(女子) 〇優勝：臨床薬理 一分三三秒四 〇二位：三三五秒四 〇三位：一衛生 一分三九秒二 〇四位：薬品物理 一分四二秒九 〇五位：男女混合 〇優勝：臨床生化 一分三九秒四 〇二位：一衛生 〇三位：二生薬、化学

薬味

今月一日、新幹線は二五周年を迎えた。昭和三十九年十月一日、東京オリムピックの開催に合わせて国鉄が東海道新幹線(東京)新大塚から開業。当時では世界最高の時速二二〇キロ営業運転を行つた。その後、超特急として人々にもはややれど延び、昭和五十六年九月にフランス国鉄TGV(現在時速三〇〇キロ営業運転中)に世界一の座を譲つたものの、東北・上越新幹線と次々に開業、昭和六〇年秋から二階建て新幹線車輛が営業運転を始め、現在では時速二二〇キロで運行を行っている。この二五周年、新幹線は一件の死亡事故も起こさず、延べ二億七千万もの乗客を運んだのである。JR東海では東京・新大塚間を二時間三十分で結ぶ時速二七〇キロの「スーパーひかり」を開発する予定で、来年春には試運転車両一編成を完成させ一九九二年には営業運転をする見通しがある。新幹線による社会現象も生じてきた。新幹線の速さ、利便性により、通勤可能距離が広がり、沿線地域での宅地開発が進み、特に東北・上越新幹線の上野乗り入れ後は、宇都宮・高崎などの都市からの新幹線による通勤、通学者もかなり増えている。中には東京の有名私立小・中学校へ通う子供までもが乗っているのである。「ソニーレラ」エクスプレスを知っている人も多いだろう。これは日曜夜、東京二時発ひかり三三三号新大塚行最終列車のことで、東京で恋人と東の間の幸せな週末を過ごした人が、恋人をプラットフォームにに残して一人帰路につくという何とも哀しいロマンチックな列車である。JR東海のT.V.C.Mなどで一躍有名になり、実際にかなりのアベック連が日曜の夜に東京駅の新大塚ホームへ来て、東京エクスプレスの体験をする人が出てくるのかもしれない。(よつちゃん)

